



秋川流域

2019.8.20

ジオの会通信

VOL. 1

秋川流域のジオサイト①



小滝

養沢川の支流の大岳沢に側壁から流れ下る滝です。大岳鍾乳洞の少し先に行くと、谷が狭まり、右手の大きな岩壁から「小滝」が流れ下っています。

普段はちょろちょろと流れていますが、豊水期には見事な滝が出現します。

滝を構成する岩石はチャート（別名；火打石）で、浸食に強く秋川流域の滝の多くがこの岩石でできています。

この付近の地質は、秩父帯の深沢層に属し、厚いチャートと砂岩の層が交互に現れ、鍾乳洞を作る石灰岩が挟まれています。堆積年代は中生代ジュラ紀で、石灰岩はフズリナを含むので、少し古い古生代ペルム紀です。

〈目次〉

秋川流域のジオサイト ①小滝	1
秋川流域ジオの会発足にあたって（内山孝男）	2
ジオツアー情報・活動状況（事務局）	2
フィールドワーク「寄居」報告（内山孝男）	3
会員リレーエッセイ ①（鈴木 肇）	4
これからの行事予定（事務局）	4

「秋川流域ジオの会」発足にあたって (会長 内山孝男)

秋川・平井川流域は、関東平野の西縁から関東山地にまたがるため、4億年以上前の古い時代の岩体を含む黒瀬川帯から第四紀の2万年前に形成された秋留台地まで、狭い範囲に多様な地質地形が分布する、日本でも稀有な地域の一つです。

ついこの間まで、流域三市町村はこの地域を日本ジオパークとして認定させることを目指していました。残念ながら行政の目標は変わってしまいましたが、豊かなジオ資源が、この地域のアイデンティティーの基礎となり得ることに違いはありません。大地の成り立ちの不思議さを学びつつ、その楽しさを周りの人たちにも広げましょう。

もっともっとジオを楽しもう！

ジオツアー情報

現在、2019年度の一般向けジオツアーの実施に向け、準備を進めています。実踏のほかにも、ミニ調査会も実施します。参加歓迎。当日の参加申し込みについては別紙チラシを見てください。

第1回「五日市憲法の里を訪ね、鳥の巣石灰岩を見る」

2019年9月22日(日) 8:30 武蔵五日市駅集合 ☆実踏 7月15日(月)

第2回「枕と素麺の間—海から来た地層を山の中で見る」

2019年10月12日(土)
9:10 武蔵五日市駅集合
☆実踏 8月12日(月)

写真

ビリ窪沢ソーメン滝



第3回「逆沢のふしぎ発見—五日市の大断層をたどる」

2019年11月17日(日) 8:45 武蔵五日市駅集合 ☆実踏 10月8日(火)

他団体との交流事業

- ・7月19日(金) 日本風穴サミット東京大会 檜原風穴の紹介(吉川洋)
- ・8月26日(月) 地学団体研究会 東京大会 秋川流域のジオサイト巡検
(ガイド; 青谷知己 ほか会員)
- ・10月27日(日) 東京都山岳連盟 三頭山ツアー(ガイド; 石井弘好 ほか会員)

これまでの行事

- 6月18日(火) テキスト学習会Ⅰ「付加体について」(竹内英二; 会員)
- 7月16日(火) 講演「故宮野浩二氏が収集した化石岩石」(内山孝男; 会員)
- 7月25日(木) フィールド学習 寄居巡検
- 8月20日(火) テキスト学習会Ⅱ「五日市町層群」(竹内英二; 会員)

はじめてのフィールド学習会 in 寄居

報告 内山孝男

7月25日、2019年度前期のというかはじめてのフィールド学習会を行いました。場所は埼玉県寄居地域。ぜひたくにも元埼玉自然の博物館館長の本間岳史先生に案内していただいた。

10:03 寄居駅着 駅前で本間先生と合流し、正喜橋を渡って国史跡・鉢形城跡へ。鉢形城は中世に長尾景春が築城し、戦国時代には後北条による北関東支配の拠点となった名城ですが、ここでの見どころは深沢川。深沢川に露出する砂岩～礫岩は古第三紀の浅海性堆積物「寄居層」で、イタチザメの歯化石が発見されています。写真1の橋脚の向って右側にある小さな露頭には赤い石英の礫がたくさん入った礫岩「鉢形礫岩部層」(写真2)が露出しています。これらの岩石は、後述する寄居溶結凝灰岩とともに領家(中央構造線の北側)の要素であり、低角度の断層を介して、南側の現位置に横滑りして来たもの(クリッペ)と考えられています。



写真1

鉢形城本曲輪下の深沢川と鉢形礫岩



写真2

正喜橋を渡り返し、玉淀河原で河原に降りると馬の背の連なりのような緑灰色の岩体「寄居溶結凝灰岩」が露出しています(写真3)。岩に入っている白いスジに、鈴木さんがサンポールをかけると発泡しました。石英脈でなく方解石脈です。岩はルーペで見ると石英をたくさん含んでいることから、流紋岩質海底火山噴出物が海溝まで運ばれて付加した岩体であるとわかります。



写真3

玉淀川原の寄居溶結凝灰岩と参加者(前列中央が本間先生)



写真4

ここで記念撮影(写真4)、「埼玉療育園」下の川原では荒川の多彩な石たちを並べ、本間先生がそれぞれの石ころの来歴を説明してくれました。石説明の手本!とも言うべきパフォーマンスでした。「象ヶ鼻」は宮沢賢治が「輝岩」を採集した場所。御荷鉾緑色岩の急な崖です(次頁写真)。ナント!ここへ至るまでの道は本間先生が事前にヤブ払いをして造ってくださったのだとか。

本間先生のおかげで、三波川変成岩やクリッペ構成岩などの秋川流域では見られない地質要素を存分に楽しむことができました。



会員のページ リレーエッセイ①（鈴木 肇）

「鈴木新道」

以前、自分独自の登山ルートを作ったことがある。「喜作新道」という本を読んで影響を受けたのだ。喜作新道というのは北アルプスの大天井岳から槍ヶ岳を結ぶ長大なルートだ。この道を作った人は小林喜作とって、当時有名な山案内人であり猟師だった。

自分で開こうと思って選んだコースは、大岳沢支流の鍋割沢から芥場峠までのコースだ。この新道ができると、サルギ尾根と合わせて巡回できる道になり、上養沢に戻ってくることができる。けれども沢筋には倒木も多くヤブも深い。なので、チェーンソーと鎌を持っていき休日ごとに汗を流した。芥場峠が近くなるとコース取りが難しくなり、地図とコンパスを見極めながら慎重に進んだ。その甲斐があって、狙い通りに峠の道標に出た時は、何とも言えない喜びに浸ることができた。

鍋割沢の上流には「隠れ滝」というチャートの岩で取り囲まれた神秘的な滝がある。でも今では、それらは皆、元のヤブに戻ってしまっていると思う。

これからの行事

- 9月17日（火）報告会「枕と素麺の間ービリ窪沢の調査報告」（鈴木肇；会員）
- 10月15日（火）テキスト学習会「関東山地東麓の丘陵と段丘」（竹内英二；会員）
- 11月19日（火）講演会「広域テフラ対比に基づく多摩川流域における古環境復元」
（田村糸子；首都大学）

☆会場；五日市ファインプラザ2F研修室 時間；18時～

☆参加費；1回300円（会員無料）

会員・会費

秋川流域ジオの会では、随時会員を募集しています。秋川流域の大地の豊かさと面白さを学び伝える活動にぜひご参加ください。現在の会員数は28名です。

☆年会費 2000円（会計年度 1月～12月）

☆振込口座 口座開設中（それまでは事務局に直接お渡しください）

秋川流域ジオの会通信 vol.1 2019年8月20日発行

発行：秋川流域ジオの会

発行人：内山孝男 編集事務局：青谷知己

連絡先；〒197-0814 あきる野市二宮1300-97 池田美智子 tel 080-5470-1588